

三重県護国神社奉賛会報

第八十六号



明治天皇御製(明治三十七年)

おほぞらにそびえて見ゆるたかねにも

登ればのぼる道はありける

万灯みたま祭

今年も「万灯みたま祭」が七月二十三日より二十五日迄の三日間開催されます。

ご遺族崇敬者の方々より心のこもった献灯が、毎年境内所狭しと掲げられます。

万灯みたま祭は、かつて国難に際し、家族と郷土と国家を護らんとし、御盾となり命を捧げつくされた護国の御英霊に万の灯をもってお慰めし、平和を感謝し幸福を祈念するお祭りです。

当会会員よりも献灯頂いておりますが、一灯でも多くの献灯をさせていただきます。ご協賛の程、よろしくお願い致します。なお、期間中お繰り合わせの上、是非ご参拝頂きますようご案内申し上げます。

◇一般献灯

鳥居脇に献灯します

一灯 二千元



◇特別献灯

外拝殿に献灯します

一灯 五千元



会費納入のお願い

『平成二十五年度』（平成二十五年九月一日～翌年八月三十一日迄）の会費未納の方は、会費を納入頂きますようお願い申し上げます。

尚、納入の際は奉賛会専用の振込用紙をご利用下さい。

※送金手数料は奉賛会で負担いたします。

正会員 二千元

特別会員 一万円

奉賛会入会のご案内

奉賛会は護国神社の御英霊を恒久的に奉慰奉賛していく事を目的とし、結成され、多くの方々よりご賛同を賜って参りましたが、会員数が年々減少しているのが現状です。

そこで、一般有志の方の入会を進め、会員の増加を図りたく、会員よりのご紹介を宜しくお願い申し上げます。

入会ご希望の方は直接神社へお越し頂くか、奉賛会事務局までお知らせ下さい。

三重県護国神社内 奉賛会事務局

TEL ○五九一二二六―二五五九

散華の心と鎮魂の誠

麻生 攝郎 命



神風特別攻撃隊第四筑波隊
昭和二十年四月二十九日歿
南西諸島洋上にて戦死

早稲田大学
海軍第十四期飛行科予備学生

海軍大尉

福岡県出身 二十三歳

御父上様には益々御健勝に亘らせられてある事と存じます 攝郎が此処に本懐を遂げました事を御喜び下さいませ

大正拾年生を我国に享けてより二十余年強健な体軀と意志により陛下に御奉公出来ました 之ひとへに御両親の御慈愛と深く深く感謝する次第で御座います

小学校中学校を通じて幾多の親不孝を致し亦大学部に有りましても何等の孝行を致す事なく御別れ致す事は心残りの様にも思はれます 然し陛下に御奉公出来まして其の万分の

一でも補足出来ました事を深く信じ嬉しく存じます

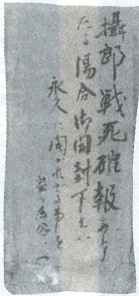
陛下の御為ならば如何なる場所であらうとも決して其死場所等云々せぬ覚悟で御座います 例ひ一孤島にて死にましたとしても七生報国い万生報国の念に変わりありません 攝郎の志望を心よく御赦下さいました事を重ねて御礼申し上げます

次代には親孝行者に生まれて参る事を御約束致します
中嶋麻生の繁栄を遙かなる地より何時までも見守つて居ります
御身体くれぐれも御大切に遊ばします様

さようなら
陛下の弥栄を念じつ、筆をおきます
攝郎

御父上様

右御遺書は「攝郎戦死確報ありたる場合御開封下さい 永久に開かれざる事を家の為念じつ、」と表記「昭和十八年十二月八日 麻生攝郎」「開不」と裏書きした封筒に封入されていた。



遺書が封入された表記

「散華の心と鎮魂の誠より転載」

奉賛会報告

合祀祭

新しい御祭神を招魂合祀申し上げる合祀祭が去る三月十九日(水)午後六時より厳肅荘厳に斎行された。

今回の合祀祭では、伊賀市(旧青山町)、名張市出身でそれぞれ終戦後に戦病死された二柱と、既に兵庫縣神戸護國神社に御祀りされている御英霊でその御遺族が三重県に永住されるとの申し出のあった一柱の、計三柱の御祭神が合祀された。

祭典は県内の若手神職、神道青年会会員の助成をいただき、御遺族を始め乙部会長以下参列者の見守る中、御祭神には御本殿奥深く御鎮まりいただいた。



本殿

春季慰霊大祭

桜の季節も終わり若葉の芽吹き始めた、去る四月二十一日(月)・二十二日(火)の両日にわたり、春季慰霊大祭が斎行された。

乙部会長には、両日とも参列され奉賛会員を代表し玉串を奉りて拝礼された。



玉串を捧げる乙部会長

又、第二日目の祭典の締めくくりには会長の発声により萬歳三唱が行われ、参列者全員声高らかに「萬歳」を奉唱した。



萬歳三唱